



のびのびキッズ 通信



令和6年 春号
社会福祉法人 鳥取福祉会 保育部
のびのびキッズ 発行

令和6年度がスタートしました。保護者の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。鳥取福祉会では0才～すべての園児を対象に運動遊び『のびのびキッズ』を展開しています。のびのびキッズは朝の体操やマラソンなどそれぞれの園の保育士と日々体を動かす「のびのびタイム」と運動指導員が定期的に巡回して運動指導を行う「のびのびDAY(4,5才児対象)」「にこにこDAY(0～3才児対象)」で構成されています。こうした活動を通じて鉄棒まわりや跳び箱跳びといった運動スキルだけでなく「体を動かすって楽しい!」と感じられるマインドや「やってみよう!」「あきらめないぞ」といった意欲・粘り強さ、また協調性やコミュニケーション力を育てなければ…と考えています。この紙面で子どもたちがどのような遊びを行っているか、運動遊びにまつわる情報などをお伝えしていきます。どうぞよろしくお願い致します。

ご存じですか? 「幼児期に経験させたい動作」

いろいろな動作を経験しよう!

座る 寝ころぶ
立つ 渡る 転がる 廻る
起きる ぶら下がる
走る 登る よける すべる
歩く 跳ぶ 下りる
跳ねる 這う 蹴る
持つ 転がす 蹴る 捕る 積む 掘る ごく
押す 引っ張る

～体のバランスをとる動き～
～体を移動する動き～
～用具などを操作する動き～

※その他「つかむ」「うつ」「ささえる」「ふる」「さかだちする」「(水に)うく」「およぐ」などがあります

親世代の皆さんは子ども期に外遊びなどでこうした動作を知らず知らず体験してきました。現代社会においてこれらの動作は意識的に取り組まなければ体験できない社会環境になっているといわれ、子どもたちの運動能力低下の一要因といわれています。

幼児期は運動機能が急速に発達し、多様な動きを身に付けやすい時期です。この時期に運動刺激を与えることで体内の様々な神経回路が発達し、タイミングの良い動きや力加減のコントロールなど運動を調整する能力の高まりにつながります。

よろしく
お願いします

運動指導員紹介

のびのびDAY(4,5才児)担当

上高貴志 (じょう たかたかし) ①O型 ②コービー
主幹運動指導員 ③うし(のんびりだから)
④よくたべ よくねて よくあそぼう!



にこにこDAY(0-3才児)担当

坂梨さくら (さかなし さくら) 運動指導員 ①O型 ②筋トレ(ジム通い) & ヨガ ③アライグマ(手先が器用だから)
④げんき いっぱいたのしくあそぼう!

のびのびキッズに関するアンケート

昨年度末、対象年齢に応じた様式を全家庭に配布・回収しました。



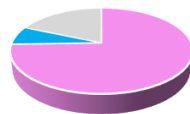
～お子様に関して～

Q: お子様は園での運動遊びの様子を教えてください。(にこにこは2,3才のみ)

Q: のびのびキッズを始めてから家庭でも運動遊具(縄跳び、ボール、公園の鉄棒等)に触れる機会が多くなったように思う。



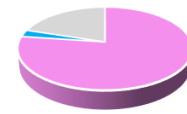
にこにこDAY



のびのびDAY

(グラフの見方)

■ はい
■ いいえ
■ どちらとも
いえない

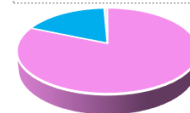


のびのびDAY

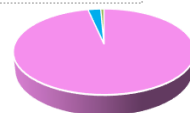
～保護者ご自身に関して～

Q: のびのびキッズの取り組み内容を知っておられますか。

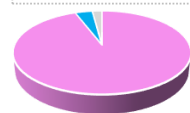
Q: のびのびキッズの取り組み内容に満足されていますか。



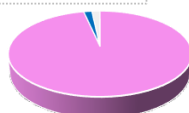
にこにこDAY



のびのびDAY



にこにこDAY



のびのびDAY

～集計結果より～ のびのびキッズの活動に対し概ね満足していると答えられた方が多くを占めました。自由記載欄では「身のこなしが良くなったように思う」「(活動のあった日には)良く食べ良く寝る」など子どもの姿の記述が多数あった他「のびのびキッズを経験して卒園した兄弟がのびのびを経験していない他児童と比べて断然動きがよい」という嬉しい回答もありました。また「参観で楽しく活動している様子が見られよかった」という回答が多くありました。本年度も2,4才児クラスにおいてのびのび参観を計画しているほか、園HPや玄関等で活動の様子をお伝えしていく予定です。どうぞお楽しみに。

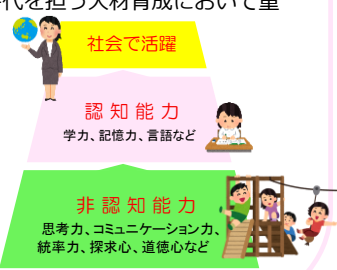
ご協力ありがとうございました

※回収率: にこにこDAY(0～3才)・・・76% のびのびDAY(4,5才)対象・・・82%

のびのびコラム

知っていますか? 「認知能力」と「非認知能力」

◆子供が将来、社会で活躍できるようになるためには、大きく二つの能力が大切であると言われています。一つはIQや学力といったテストなどで評価できる認知能力(cognitive skills)、もう一つは非認知能力(non-cognitive skills)と呼ばれるものです。この非認知能力に焦点を当てた様々な研究が今日世界中で行われています。大変深い領域の為ここでは浅く触れますが、思考力・判断力・表現力・協働力(助け合ったり譲り合ったりできる力)・コミュニケーション力…つまり日常生活や社会活動において影響を及ぼす領域です。たくさん知識を詰め込んでそれを実社会で応用する力や継続していく忍耐力がなければ社会で活躍することは困難であり、この2つの能力をバランスよく高めていくことが新しい時代を担う人材育成において重要であるとされています。◆運動遊びや戸外遊び、そしてスポーツは体を強くするだけでなく非認知能力を高める要素が沢山あります。ただし非認知能力を高めるには「できる・できない」といった結果だけにフォーカスするのではなく、その過程において子どもがトライしたこと、継続してチャレンジしたことをしっかり認めていくことで可能になります。実社会は何でも思い通りになるような楽園ではありません。将来様々な壁に当たった時「大丈夫!」といえる心の力が育まれるよう、積極的に運動に関わる生活スタイルを構築してあげたいものです。



文: 主幹運動指導員 上高貴志